

2. UWEPEKER (1)

PÁNANPE AN PÉNANPE AN (yuksapaunni kamuysapaunni)

貝沢ちき 1957年10月24日録音

Pánanpe an Pénanpe an híne síran pe ne ruwe ne hike, aynu nukar ka eramiskari p anak tun ne wa patek okay pe ne wa orowano yuk ne ciki kamuy ne ciki eawnarura, nep e rusuy nep kor rusuy somo ki no okay pe ne ruwe ne.

5 korka oraun, kamuy sapa ka yuk sapa ka ene karpa hi ka erampew-tekpa p ne kusu, oyakoyak ta, kamuy ka yuk ka ronnu yakka, sapaha osurpa etarka ki kor patek okay pe ne.

ruwe ne a p sine an ta, cip ópa híne, orano, atuy kari no hinak un payepa tun ne híne cípo híne orano paye ruwe ne ayne hinak ta paye
10 ruwe ne akusu, cékantoor-soye kane an poro nupuri an ruwe ne.

híne, nupuri corpok ta otanikor an uskehe ta cip yaptepa híne ora, néa cékantoor-soye kane an poro nupuri turasi hemespa.

ruwe ne akusu, pirka tanne kínup an.

kínup okes ta káne cise poro cise an, uskehe ta hemespapa híne, inkar
15 ruwe ene an hi,

cise erupsik ta, cékantoor-soye kane oka sunku, tup roske híne an.

híne ora ne sunku ka ta, sine sunku kasi ta, konkane cikappo ni hontom pakno rap hemespa kor oka.

2. 民 話 (1)

パナンペとペナンペがいました (ユクサパウンニ、カムイサパウンニ¹⁾)

パナンペ(川下男)とペナンペ(川上男)がいました。人間を見たこともない彼らは、ふたりだけで暮らしていました。そして鹿でも熊でもとって家に運んで来て、何を食いたいとも何を欲しいとも思わないほど、何不自由なく暮らしていました。

けれども、ふたりは熊の頭や鹿の頭をどう扱っていいのかわからないものですから、あちこちに、熊や鹿を殺しても、その頭をめちゃくちゃに捨ててばかりいたのです。

ところが、ある時、舟に乗って、それから、海を通過してどこかへ行き、ふたりして舟に乗って、しばらく行って、どこかに行くと、天を突いてそびえている大きな山がありました。

そして、山のふもとの、砂原のある所に舟を揚げて、その天を突いてそびえている大きな山に登って行きました。

すると、きれいな長いカヤ原がありました。

カヤ原の西のはずれに、金の家、大きな家があり、そこに登って行って、こんな光景を目にしました。

家の東側に、天にとどくような大きなトド松が、2本立っていました。

そしてそのトド松の上に、1本のトド松の上に、黄金の小鳥が木の中ほどまで下りたり上ったりしていました。

1) yuksapaunni «鹿の頭をつける木」、kamuysapaunni «熊の頭をつける木」とは、熊や鹿の頭骨を、先が二又になった木の棒の先にはめて、家の東側の祭壇に立ててまつる、その木をいう。萱野茂『ウエペケレ集大成』(p. 168)には、yuk-sapa-un-ni (獲物・頭・入れる・木→熊の頭をのせる二又の木)とある。萱野氏は、熊の頭骨をのせる棒も yuksapaunni だと言う。

この uwepeker はパナンペとペナンペが登場するが、いわゆる隣の爺型(パナンペが成功して金持ちになり、それをまねしたペナンペが失敗して死んでしまう)ではなく、どうして熊や鹿の頭骨を棒の先にのせて祭るようになったかを説明する説話(upas-kuma)となっていて、ちょっと特殊である。

híne ora suy sinep oro ta sirokane cikappo ni hontom pakno rap ranke hemespa ranke kor oka siri nukarpa.

orano erayappa kor oka.

akusu,

5 “nen, (eciahu . . . eciahup . . .) eciahúptere kur ka isam ruwe ne na, ahuppa yan!”

sekor haw as.

hi kusu oraun *sorekusu*, oripakpa kor, toy tukari eapamakapa híne ahup ruwe ne akusu, kamuy ne kus koraci an onne kur an.

10 úturuhe ta kamuy ne noyne an rupnemat an urorerok híne oka.

arsokehe ta pon menoko sinep an.

híne oro ta ahuppa.

orano oripak wa oka ruwe ne akusu,

“nen eciárkire wa eciárki ruwe ka somo ne.

15 katuhu anak ene an hi,

yuk sapa ka kamuy sapa ka nuwe ecikookáy pe, yuk kamuy ne siri ne korka oraun, yuk sapa ka kamuy sapa ka etarka eciosúrpa.

ne wa an pe, aecikopák wa, kusu, aecisikóekte katuhu, ne ruwe ne.

atuy kor kamuy ane híne ánan ruwe ne.

20 ora ene eciikí siri anukár, aecikopák hi ne kusu, aeci(e)árkire, aecisikóekte katuhu ne ruwe ne kusu, te wano anakne, yuksapaunni sekor aye p, oraun kamuy sapaunni sekor aye p, ecikár wa (nusa ecikár wa) nusa sekor aye p ecikár wa oro ta, yuksapaunni kamuy sapaunni ecikár wa, oro, yuk sapa ka kamuy sapa ka eciomáre, inaw ecikár wa
25 ecinómi¹⁾ yak anakne, pirka p eciné.

somo néno eciikí p ne yak anakne aeci(p . . .)pákasnu kusu eciárki (aesi . . .) aecisikóekte katuhu, ne híne eciárki ruwe ne na.

néno eciikí he ki ya, mak ne ya?”

1) 口を拭いながら発音したため hiyuy と聞こえるが、後に、二谷善之助氏にたずねたところ、ecinómi «お前たちがまつる」と言うべきだとのことであった。

そしてまた、もう1本のトド松のところに、銀の小鳥が木の中ほどまで下りたり上ったり下りたり上ったりしている様子が見えました。

ふたりはそれを見て感心していました。

すると、

「だれも出迎える人もいませんから、お入りなさい！」

という声がしました。

ですから、たいへん、かしこまって、戸のごく下の方を開けて入りました。すると神様と見まがうばかりの立派な老人がいました。

その下座には神様のような立派な老女がいて、上座下座に並んで座っていました。

その向かい側に若い女性がひとりいました。

そしてふたりはそこに入って行きました。

そして、かしこまっていたところ、

「お前たちはだれによこされて来たのでもない。

それはこういうわけなのだ。

鹿の頭や熊の頭を、お前たちはたくさんとっているが、鹿は神のようなものだが、鹿の頭や熊の頭を、お前たちはやたらに捨てている。

そのことでお前たちをとがめて、それで、お前たちをここへよこしたわけなのだ。

私は海の神だ。

そしてこのようにお前たちがするのを見て、お前たちをとがめるために、お前たちを来させ、私のもとへよこしたわけなのだから、これからは、ユクサパウンニというもの、それからカムイサパウンニというものを作って、(祭壇を作って)祭壇というものを作って、そこに、ユクサパウンニとカムイサパウンニを作って、そこに、鹿の頭も熊の頭もせ、木幣を作って(祭る)ならば、お前たちはよいものになる。

そうしなければ罰せられるためにお前たちは来た、お前たちを私のもとへよこしたというわけで、お前たちは来たのだよ。

お前たちはそうするか、どうだ？」

sekor, néa kamuy ne noyne an kur, onne kur hawean hike, Pánanpe
Pénanpe yaykosiramsuypa humi ene an hi,

“ aikóypak hi akkari néno ikian *sita ho* pirka hawe ne! ”

sekor yaynupa híne, oraun,

5 “ ne yuksapaunni kamuysapaunni ene akar hi aiyépakasnu yakun,
néno akar hawe ne na”

sekor, Pánanpe Pénanpe haweoka ruwe ne akusu ora,

“ sekor sekor akar katuhu okay pe ne.

nusa ka sekor sekor akar pe ne na.

10 néno eciikí p ne na”

sekor, néa onne kur hawean.

híne oraun néno ikipa kuni eesepa híne ora soyenpa ruwe ne.

akusu os, sóyenpa p os néa kamuy onne kur ene hawean hi,

“ ta soy ta oka cikappo sinep *cici* aecikoré.

15 konkane cikap sinep, sirokane cikappo sinep, tup aecikoré ruwe ne
na, eciyéám no eciokór wa eciyáppa, oraun, turano ecioká.

eciyéáp yakne ora, *tantani* pirka menoko ne oka wa, turano ecioká
oasi ruwe ne na.

yakne, aynu uwaste katuhu, aynu uwaste motoho, ne wa usipirasare

20 p aynu ne motoho ne oasi ruwe ne na.

néno eciikí oasi ruwe ne na”

sekor (haw as) néa kamuy onne kur hawean híne, ora néa, konkane
cikappo sinep sirokane cikappo sinep ranke uynapa híne, kor híne,
konto néa, cip oro ta rappa híne, cípo híne néa Pánanpe Pénanpe uni ta

25 arki.

ruwe ne akusu nani *sorekusu* kamuy ne noyne oka pon menoko tup
ne híne, *konto* usa mat ne akor¹⁾ híne orano okaan rápokke, (pókor’an)
pókor, nérok menoko ki.

orano yuk ne ciki kamuy ne ciki aeáwnarura ene aiyé hi ne kusu ne

1) パナンペ・ペナンペ物語は通常3人称で語られる。この話でもここまでは3人称叙述で来たが、ここからはパナンペとペナンペの語った話ということになり、不定人称になっている。

と、その神様のようなお方、老人が言いました。そこで、パナンベとペナンベはこう考えました。

「とがめを受けるより、言うとおりにしたほうがよさそうだ！」

と考えて、

「その、ユクサパウンニとカムイサパウンニの作り方を教えて下さったら、そのようにしますから」

とパナンベとペナンベが言いました。すると、

「こういうふうに、こういうふうにして作るのだ。

祭壇もこういうふうに、こういうふうにして作るものだよ。

お前たちもこのようにするんだよ」

と、その老人が言いました。

それからそのようにすることを承諾して、ふたりは外へ出ました。

すると、あとから、外へ出たふたりのあとから、その神様のような老人が、こう言いました。

「ここに、外にいる小鳥を1羽ずつお前たちにやろう。

黄金の鳥を1羽、銀の小鳥を1羽、2羽お前たちにやるから、大切に持って村へ帰るのだよ。そして一緒に暮らすのだよ。

村へ帰れば鳥たちは、だんだんに美しい女の人になって、お前たちはその女たちと一緒に暮らすようになるのだよ。

そうすれば、人間がふえるいわれ、人間がふえる元になって、これから人間の系統が広がる元になるのだから、

そのようにするのだよ」

と(いう声が聞こえました)その神様のような老人が言いました。そして、それからふたりは、その、黄金の小鳥を1羽、銀の小鳥を1羽ずつ取って、持って、今度さっきの、舟のところへ下りて行って、舟を漕いで、そのパナンベとペナンベの家に戻って来ました。

そうしたらすぐに、それこそ神様のようなふたりの若い女性になって、今度私たちはそれぞれ妻にめとって、そうして暮らしているうちに、その女性たちに子供が生まれました。

それから私たちは鹿でも熊でもとって家に運んで来て、言いつけられたこと

manu, nusa ka akar, yuksapaunni ka akar, kamuysapaunni ka akar híne nusaha akar híne oro ta aarí.

orowanopo, ne siri he ne ya, etoko okake coyranke kur anepa kor okaan rápokke, néa pon menoko tup mat ne (usa ne) usa akor wa orano
5 pósiresikte híne kusu an pe, aynu usipirasare katuhu, motoho, ne ruwe ne kusu, aeysoytak.

sekor, Pánanpe Pénanpe haweoka.

sekor an uwepeker *yo*.

ですから、祭壇というものも作り、ユクサパウンニも作り、カムイサパウンニも作って、そのための祭壇を作って、そこに置きました。

それからというものは、どういうわけだか、私たちは前にも後にも、獲物が天からおろされるように、どんどんとれる人になって暮らしている間に、その若いふたりの女性をそれぞれ妻にめとって、それから子供が沢山できて、それがもとになって、人間がふえて系統が広がったわけ、起源なのですから、話して聞かせました。

とパナンペとペナンペが言いました。

というお話よ。